

# 2021年2月期 通期決算説明資料

2021年4月27日

ツインバード工業株式会社  
証券コード：6897

- 2021年2月期 通期決算概要
- 2021年2月期 配当案
- 2022年2月期 業績予想について
- 中期経営計画の進捗状況と今後の取り組み

補足資料 2021年2月期 第4四半期業績

# 2021年2月期 通期決算概要

# 2021年2月期 通期決算ハイライト



FPSC（フリー・ピストン・スターリング・クーラー）事業が牽引し増収増益で黒字転換

財務体質を大きく改善し戦略的な投資余力を確保

売上高

**125.1億円**

(前期比 **+2.9%**)

FPSC事業  
売上高

**15.5億円**

(前期比 **5.0倍**)

売上高  
総利益率

**33.6%**

(前期比 **+4.7 pt.**)

自己資本比率

**62.2%**

(前期末比 **+7.6 pt.**)

営業利益

**6.1億円**

(前期比 **3.4倍**)

ROE

**2.3%**

(前期比 **+4.4 pt.**)

親会社株主に帰属する  
当期純利益

**1.6億円**

(前期比 **黒字転換**)

1株当たり  
年間配当額

**12円**

(前期比 **1円増配**)

# 2021年2月期 通期損益概況



FPSC（フリー・ピストン・スターリング・クーラー）事業における大型受注が業績に大きく貢献し増収増益で黒字転換

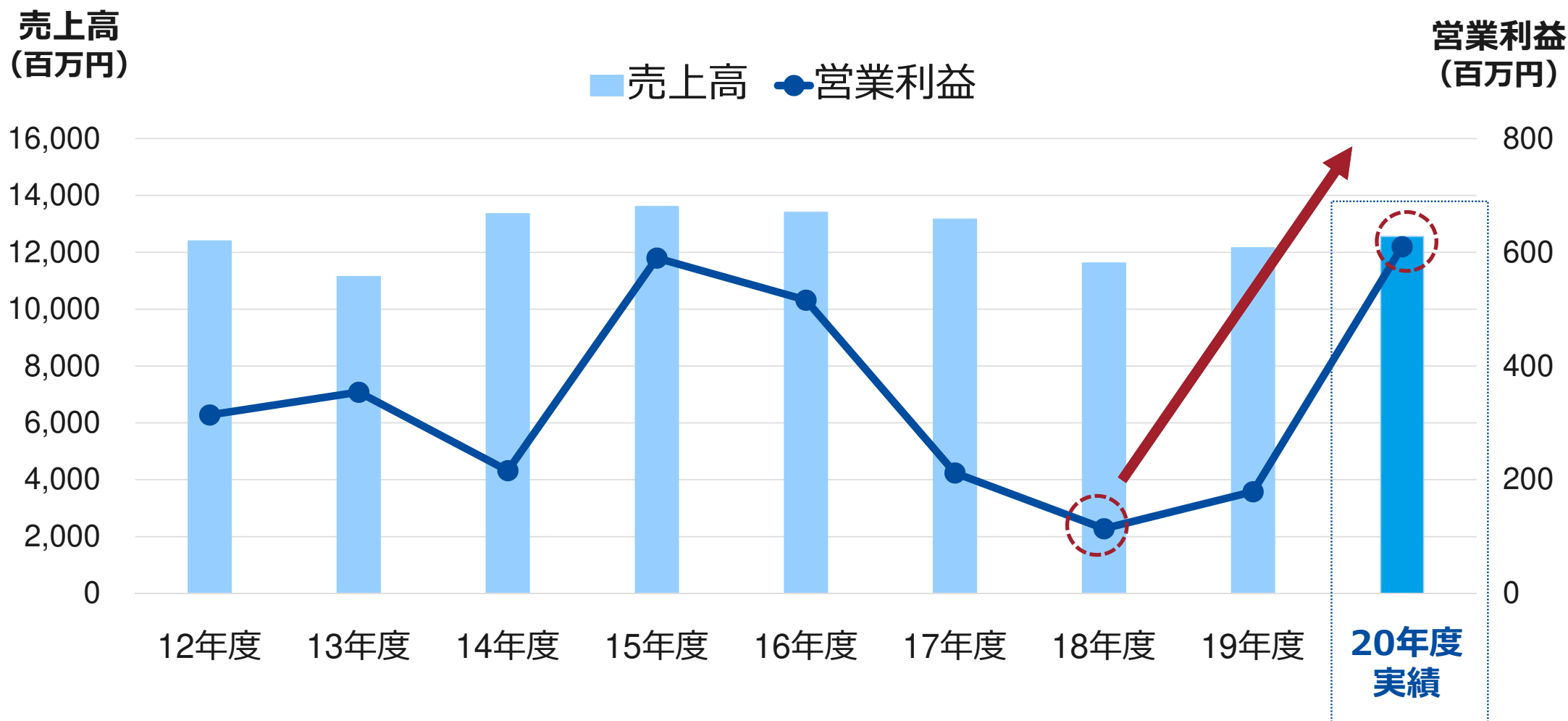
単位：百万円	2020年度	2019年度			(参考)
	通期 実績	通期 実績	前年同期比 差額	成長率	2020年度 通期 業績予想
純売上高	12,505	12,159	346	2.9%	12,444
売上総利益	4,197	3,505	691	19.7%	
純売上高比	33.6%	28.8%	4.7pt		
営業利益	608	178	430	240.6%	623
純売上高比	4.9%	1.5%	3.4pt		5.0%
経常利益	484	66	417	626.9%	486
当期純利益又は当期純損失 (親会社株主帰属分)	164	△133	297	-	131

※ 業績予想は2021年2月26日時点の公表値

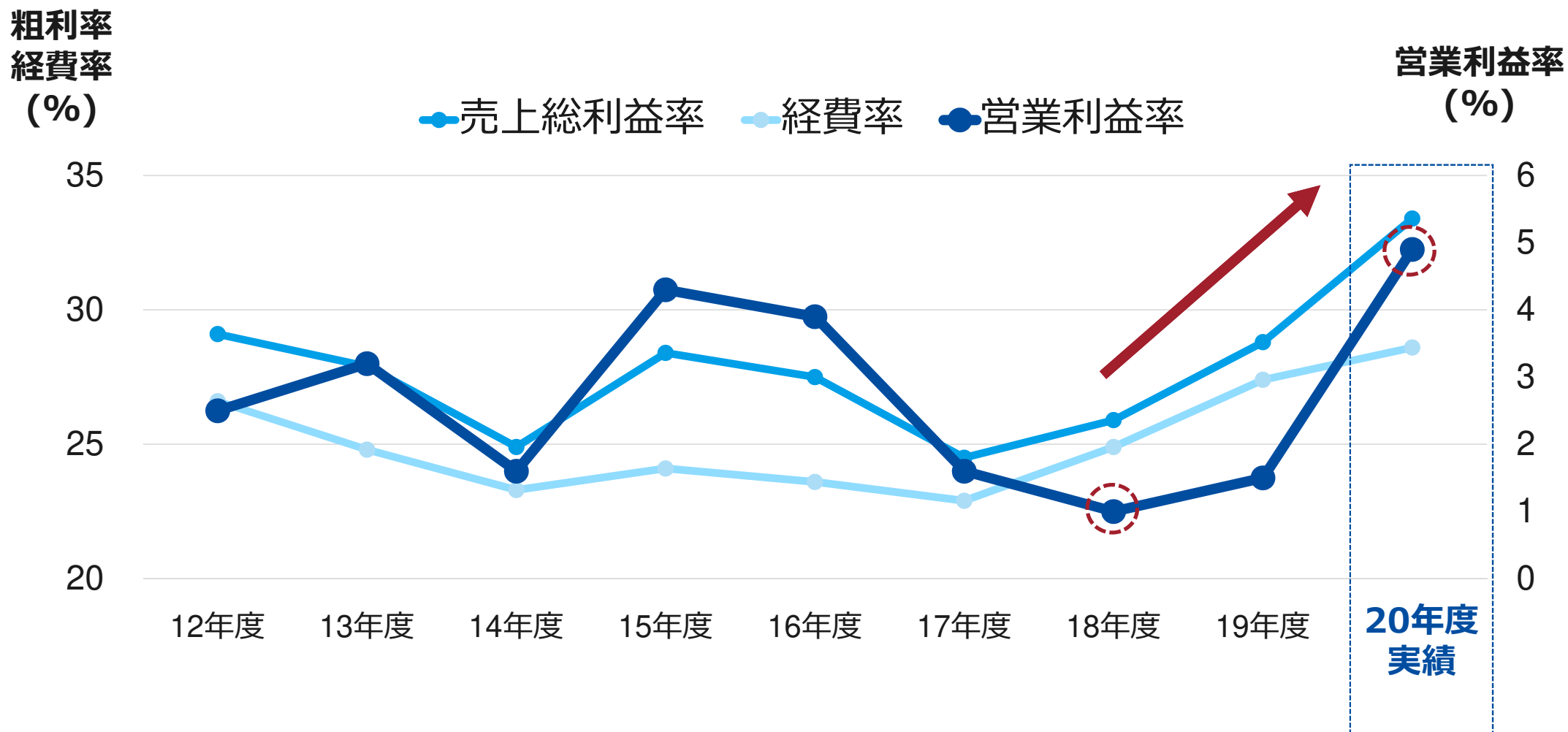
# 営業利益以下の段階損益

単位：百万円	2020年度 実績	2019年度 実績	差額	主な要因
営業利益	<b>608</b>	178	430	
営業外収益	<b>36</b>	28	7	(FY19) 受取配当金 9 (FY20) 受取配当金 6 為替差益 9
営業外費用	<b>161</b>	140	20	(FY19) 支払利息 22 売上割引 112 為替差損 3 (FY20) 支払利息 18 売上割引 124 新株予約権発行費・株式交付費 14
経常利益	<b>484</b>	66	417	
特別利益	<b>24</b>	0	24	(FY20) 政策保有株式等売却益 25
特別損失	<b>322</b>	231	90	(FY19) 固定資産除却損 17 株式評価損 212 (FY20) 固定資産除却損 46 リコール損失・引当繰入 26 減損損失246 (システム 233、その他 13)
税引前当期純利益	<b>186</b>	△164	351	
法人税等	<b>144</b>	3	141	
法人税等調整額	△ <b>122</b>	△34	△87	
当期純利益	<b>164</b>	△133	297	

# 売上高・営業利益推移： 営業利益がV字回復



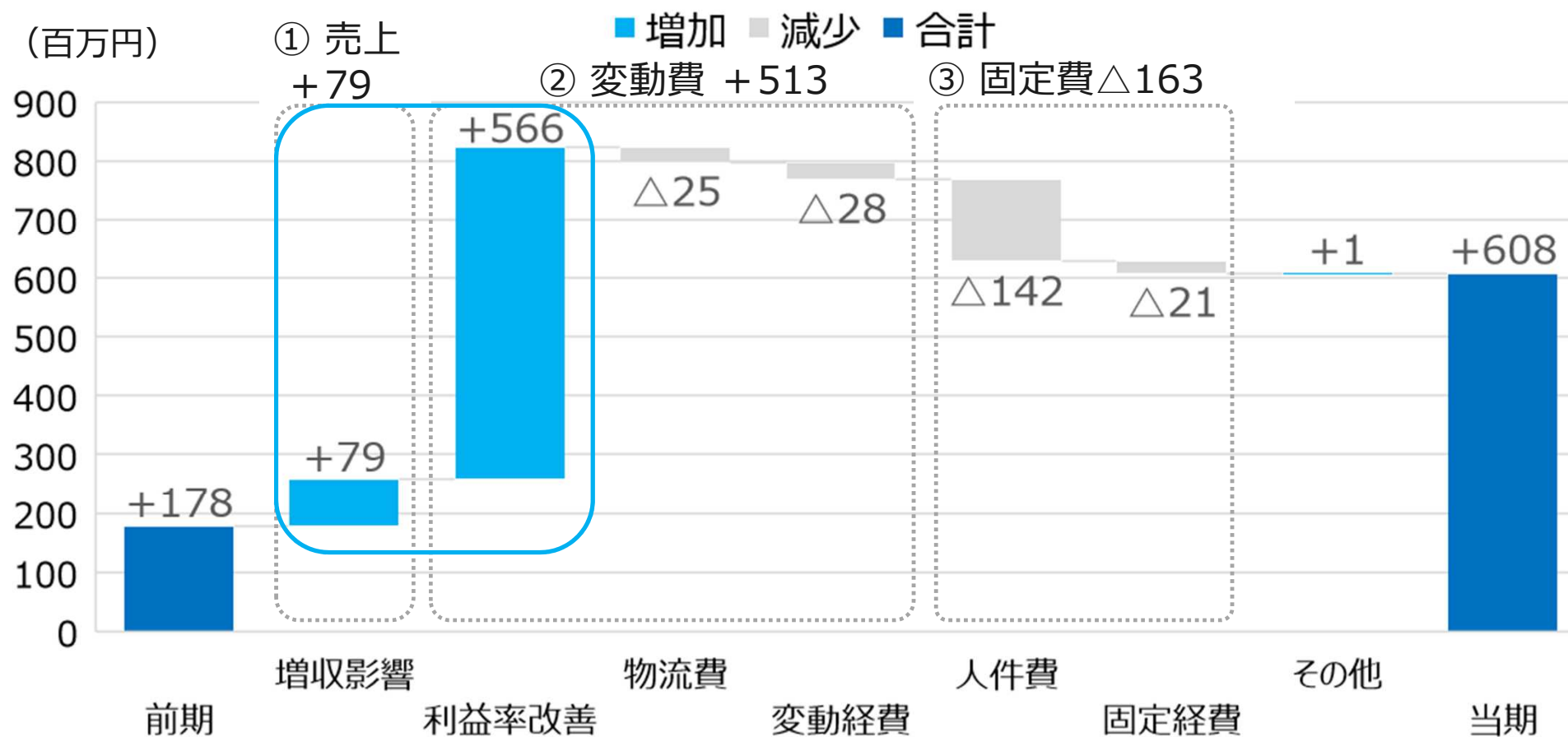
# 収益性推移： 売上総利益率の改善が収益性回復を牽引





# 通期営業利益： 前年同期比増減要因分析

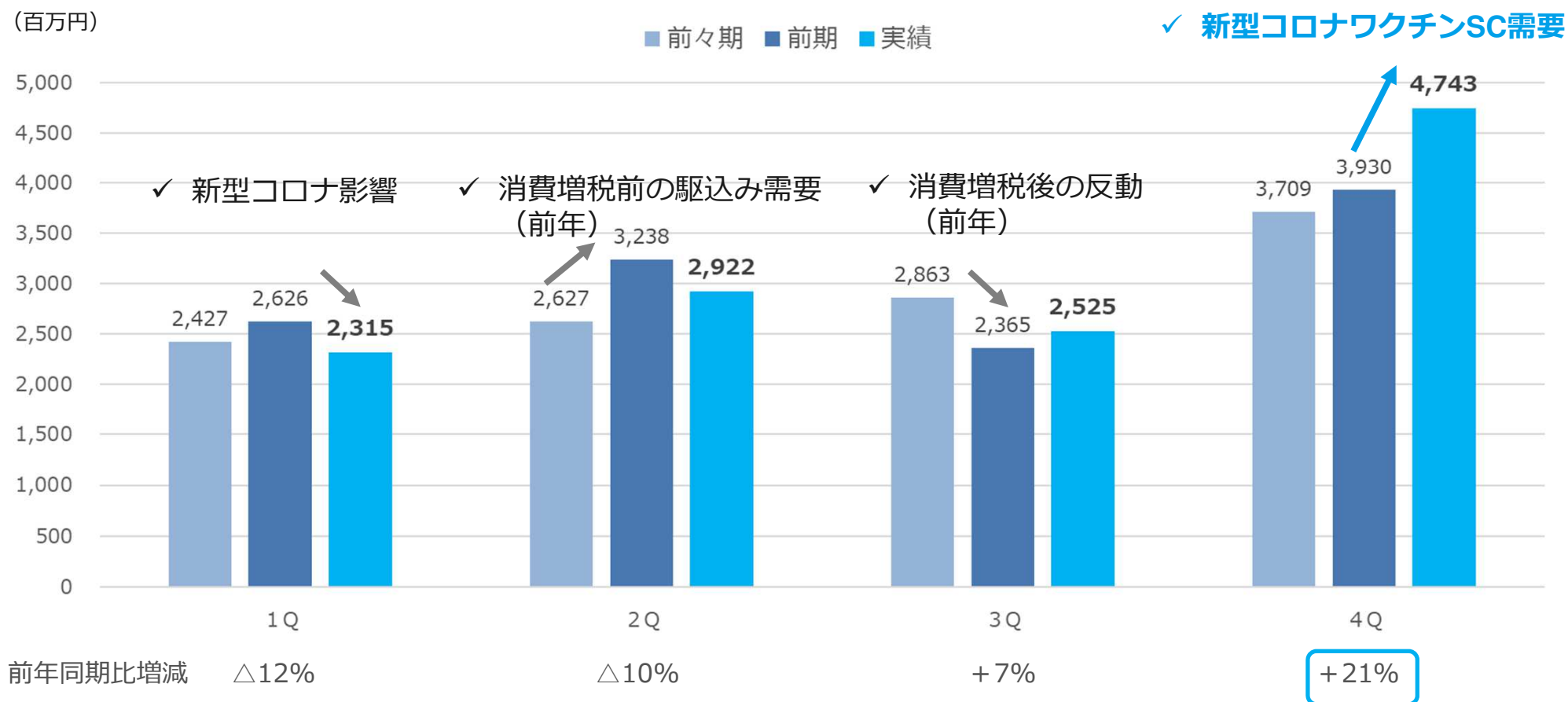
FPSCの事業拡大が収益性改善と増益の両面で大きく貢献



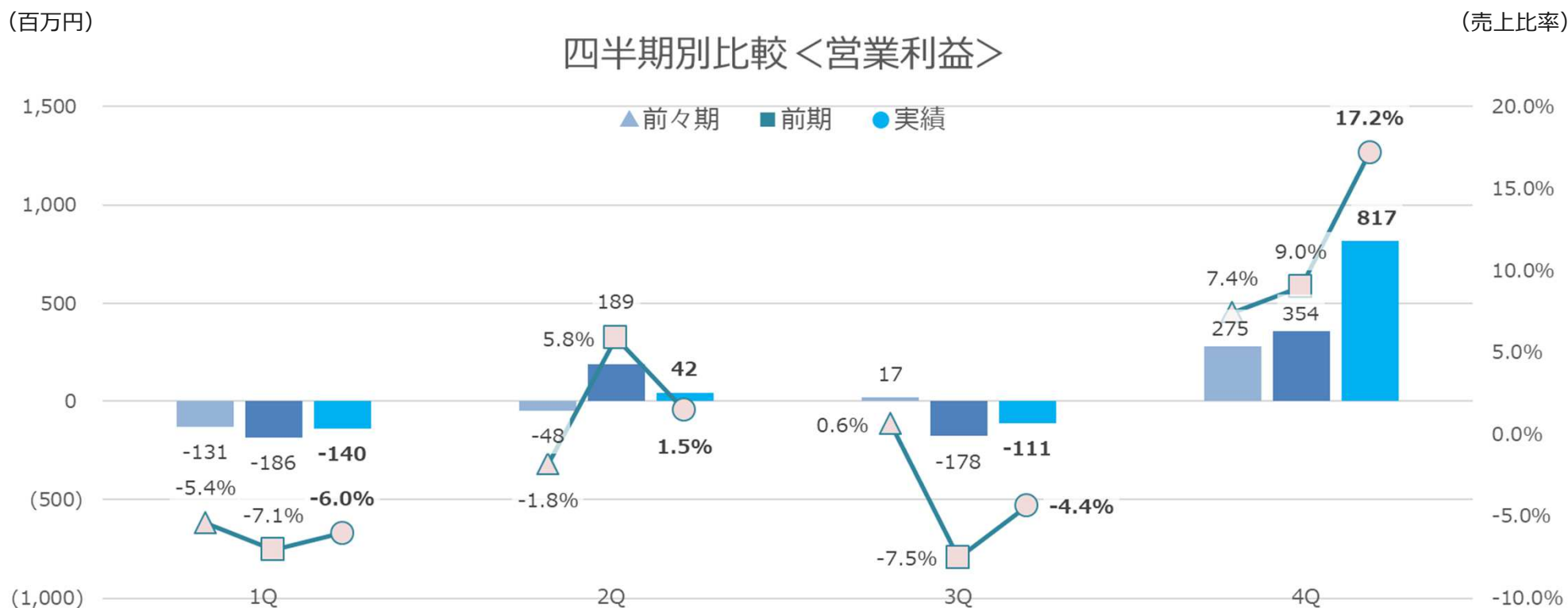
# 四半期別売上高推移

新型コロナワクチン用ディープフリーザー需要を獲得 増産体制を早期に確立し、業績に大きく貢献

### 四半期別比較<純売上高>



# 四半期別営業利益推移



# セグメント別業績概況

- 家電製品事業**
- ・ ホテルや病院向けの業務用家電市場での新型コロナウイルス感染症拡大による需要低迷が減収の主因
  - ・ 中期経営計画の主要施策である収益性の高い商品への販売重点化等で売上高総利益率改善
  - ・ 取扱商品の大型化に伴う物流費増加、中途採用増・新規販路開拓などの戦略的経費増加

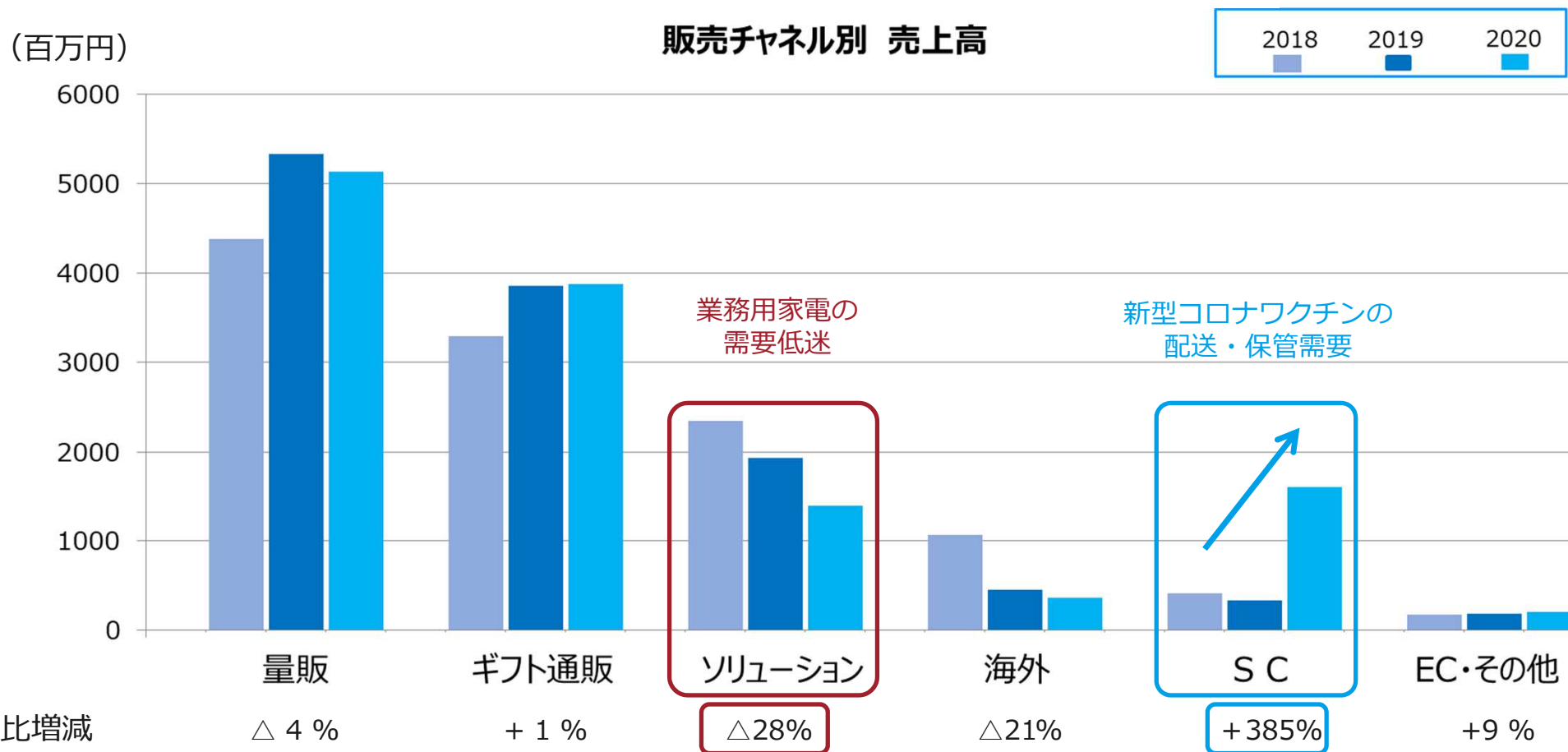
- FPSC事業**
- ・ SC-DF25WL(新型コロナウイルス感染症ワクチン用ディープフリーザー) について累計1万台受注 (厚生労働省向け5千台の出荷を2020年度内に完了)
  - ・ 重要なビジネスパートナーであるGlobal Cooling, Inc. (米国オハイオ州) から新型コロナウイルス感染症ワクチン用極低温保冷用容器 (SC-DF25ENC GGR) も大量受注
  - ・ 新潟県燕三条地域を中心に地元企業と協業して2020年度11月より増産体制構築

単位：百万円	家電製品事業				FPSC事業			
	2020年度	2019年度	前年同期比		2020年度	2019年度	前年同期比	
	通期実績	通期実績	差額	成長率	通期実績	通期実績	差額	成長率
売上高	10,952	11,849	△897	△7.6%	1,553	309	1,244	402.0%
セグメント利益	97	130	△33	△25.7%	511	47	463	970.2%
売上高比	0.9%	1.1%	△0.2pt		32.9%	15.4%	+17.5pt	

# 販売チャネル別通期売上：ホテル・病院向け業務用家電の需要低迷

量販：一部店舗の閉鎖による来客数減少（当第1四半期）が影響し、その後挽回も微減

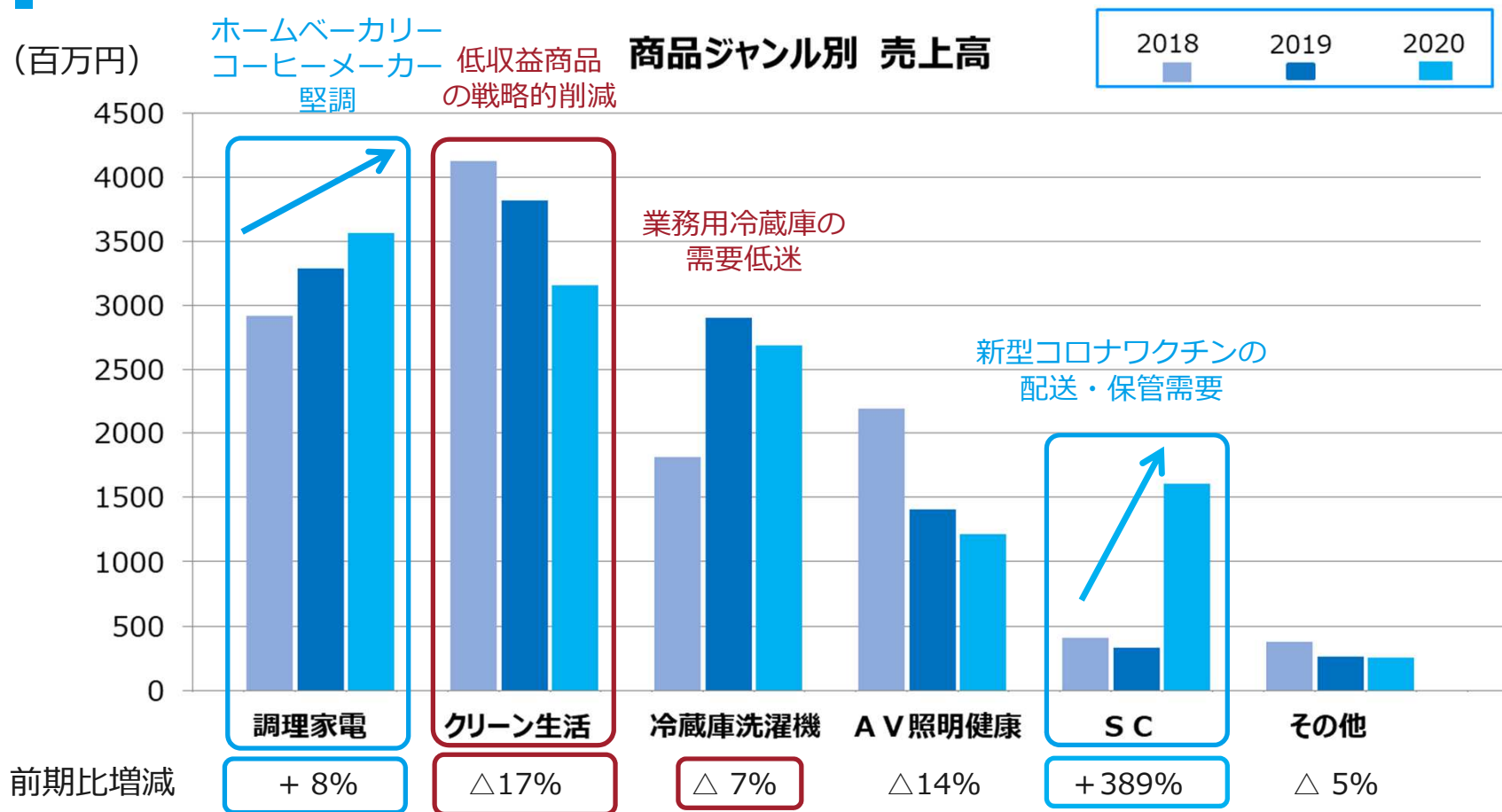
ギフト通販・EC：ポイントサービス市場・EC市場で巣ごもり需要拡大



# 商品ジャンル別通期売上高：調理家電が巣ごもり需要で伸長

調理家電：巣ごもり需要でホームベーカリーや全自動コーヒーメーカーが堅調

クリーン生活：収益性改善に向けて低収益商品のSKUを戦略的に削減



全自動  
コーヒーメーカー  
CM-D465B



Take bran !  
ブランパンメーカー  
BM-EF36W

# 連結貸借対照表： 資産圧縮と増資により財務体質改善



コロナ禍のリスク対策として手元資金を確保

総資産（現預金以外）の圧縮と新株予約権による増資効果で財務体質を改善し戦略的投資余力を確保

単位：百万円	2020年度 当期末	2019年度 前期末	増減	主な増減要因
現預金	2,369	1,066	1,303	コロナリスク対応で手元資金確保
売上債権	2,963	2,402	561	FPSCの期末売上増
たな卸資産	2,899	3,145	△245	FPSC在庫増加も効率化継続
その他	267	205	62	
<b>流動資産 計</b>	<b>8,501</b>	<b>6,819</b>	<b>1,682</b>	
有形固定資産	3,862	3,822	40	FPSC増産投資反映
無形固定資産	119	296	△176	システム資産の減損
投資その他資産	488	644	△156	政策保有株式の処分
<b>固定資産 計</b>	<b>4,470</b>	<b>4,763</b>	<b>△292</b>	
<b>資産 合計</b>	<b>12,971</b>	<b>11,582</b>	<b>1,389</b>	

	2020年度 当期末	2019年度 前期末	増減	主な増減要因
仕入債務	451	205	246	FPSC増産影響
短期借入金	1,050	1,100	△50	
長期借入金	1,856	2,548	△691	借入金圧縮
その他	1,544	1,406	137	
<b>負債 合計</b>	<b>4,902</b>	<b>5,259</b>	<b>△357</b>	
資本金・資本剰余金	5,093	3,576	1,516	エクイティ性資金調達
利益剰余金	2,942	2,877	64	
その他	33	△131	164	
<b>純資産合計</b>	<b>8,068</b>	<b>6,322</b>	<b>1,746</b>	
<b>負債 &amp; 純資産合計</b>	<b>12,971</b>	<b>11,582</b>	<b>1,389</b>	

# 連結キャッシュフロー計算書：財務体質が大きく改善



厚労省向け販売で売上債権増加 棚卸資産はFPSC増加も期首比圧縮 SC増産設備で固定資産支出増加  
 前期に引き続き長短借入金を圧縮 エクイティ性資金調達で大きな収入を実現 手元預金を厚く確保

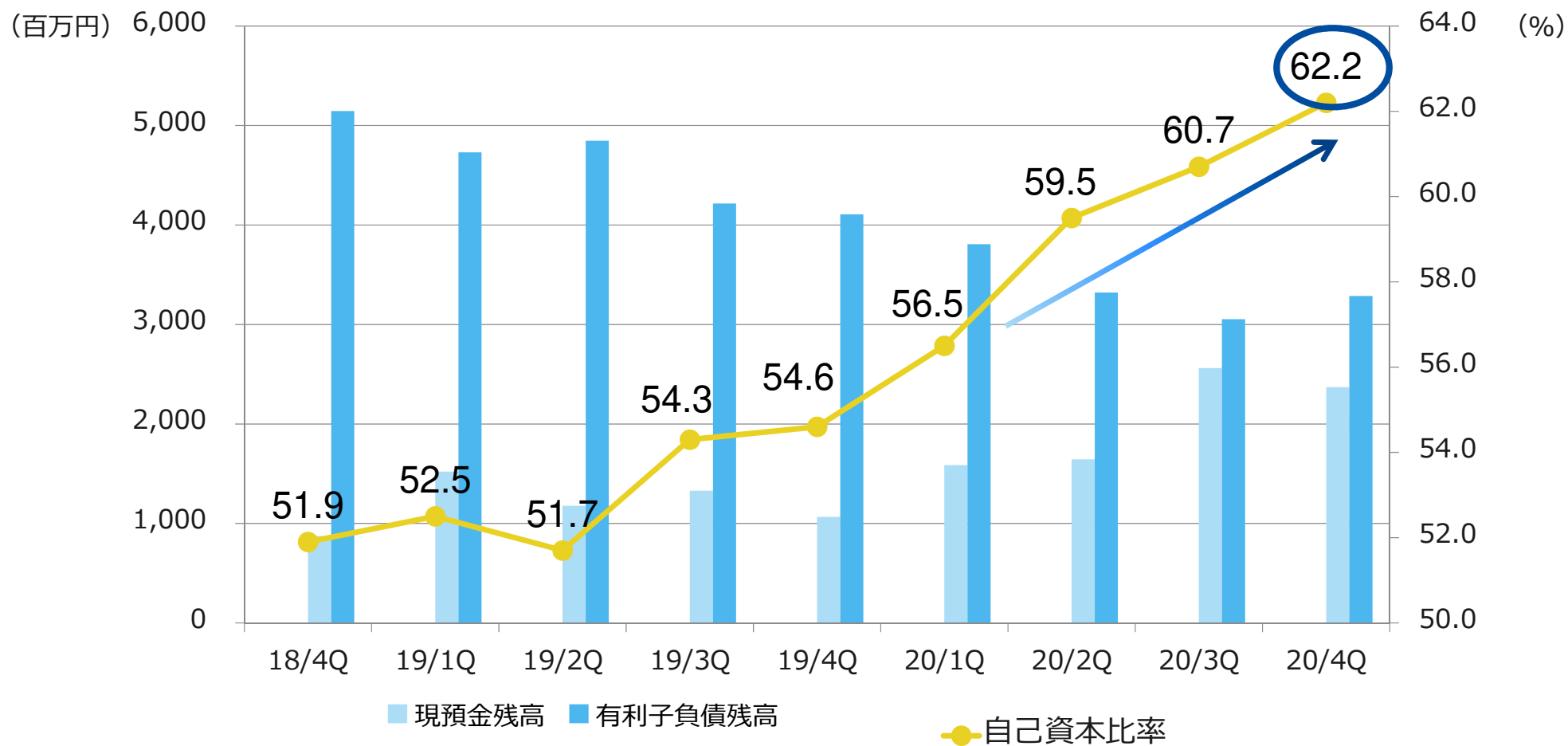
(単位：百万円)

	FY19	FY20	前期比		FY19	FY20	前期比
税引前当期純利益	△165	187	351	短期借入金の変動	△400	△50	350
減価償却費	486	355	△131	長期借入金の変動	△465	△692	△227
売上債権の増減	10	△573	△583	リース債務返済	△170	△119	51
棚卸資産の増減	553	212	△342	配当額の支払	△99	△99	△0
その他資産の増減	113	35	△78	株式発行収入	0	1,505	1,505
仕入債務の増減	1	246	246	その他	△30	△6	24
その他負債の増減	204	143	△61	財務C F	△1,163	540	1,703
その他	333	283	△50				
営業C F	1,535	887	△648	現金等の換算差額	5	△7	△13
固定資産支出	△188	△433	△245	現金等の増加額	262	1,363	1,101
投資有価証券売買	△1	317	318	現金等の期首残高	365	627	262
その他	74	59	△15	現金等の期末残高	627	1,990	1,363
投資C F	△115	△57	58				



# 財務安全性の推移（四半期別）：財務体質は大きく改善

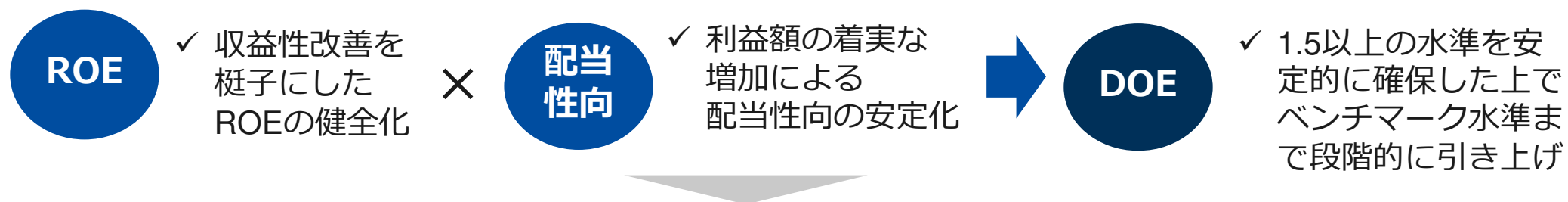
有利子負債残高は減少継続 自己資本比率は前期末より+7.6ポイント改善



# 2021年2月期配当案

## 【当社株主還元政策の基本的考え方】

- 当社は企業価値の向上により、株主価値を高めることを経営の重要課題と認識しております。業績を向上させ財務体質の強化を図ることで、安定的かつ持続可能な株主還元（配当・自己株式取得）をおこなうことを基本方針としています。
- 配当については、DOE1.5%以上の水準を安定的に確保し、段階的に引き上げることを目指しております
- 一方、自己株式の取得については、資本効率向上などを目的として、経営環境、業績動向、並びにフリー・キャッシュ・フローや財務レバレッジの水準、将来の事業資金需要の見通しなどを総合的に考慮し、適切な時期に機動的に実施します。



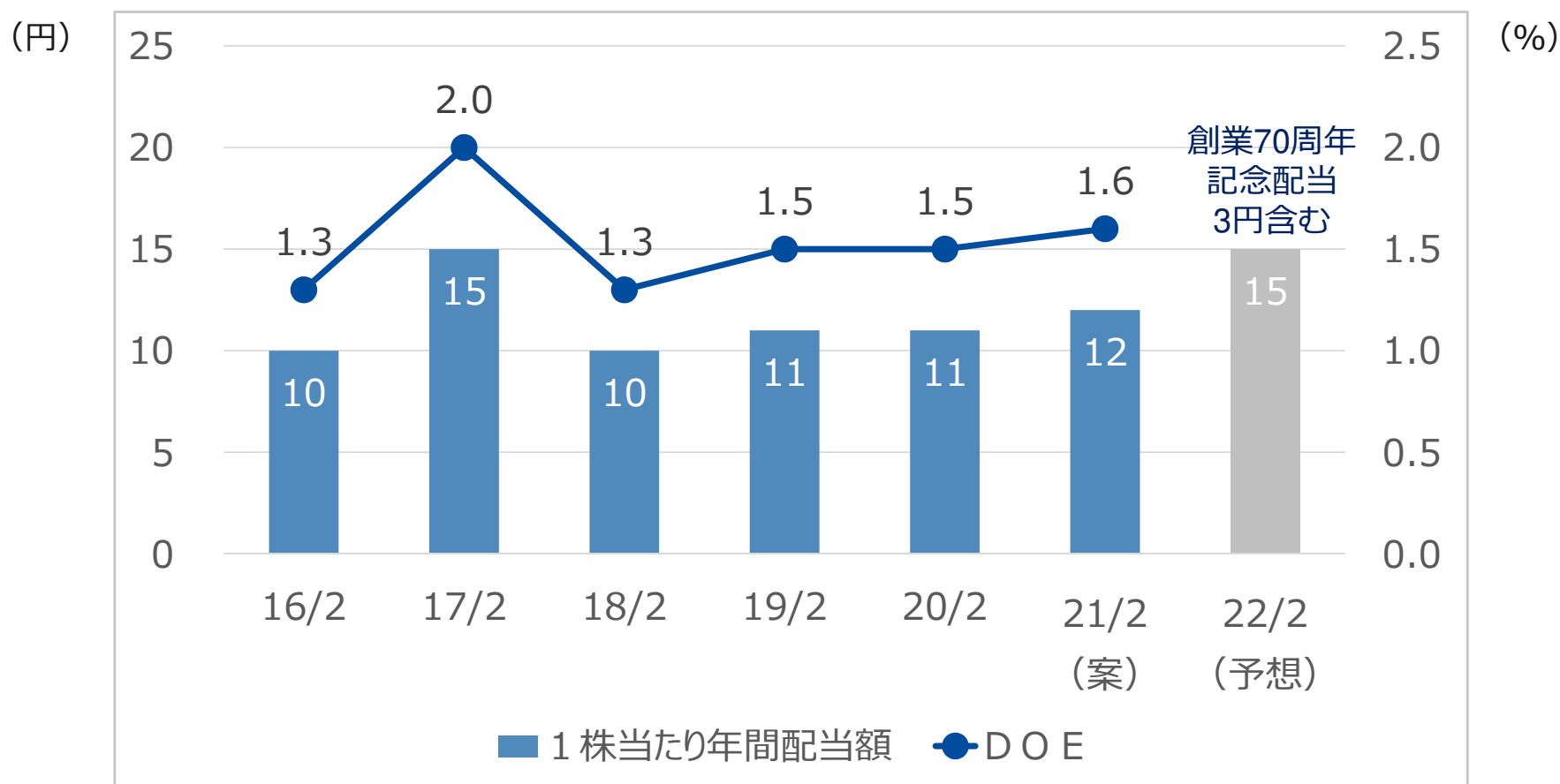
### 第59期（2020年3月1日～2021年2月28日）の期末配当案

- |               |                                 |
|---------------|---------------------------------|
| 1. 期末配当金      | 当社普通株式1株当たり 9円                  |
| 2. 支払総額       | 97,347,672円 (株式数10,816,408株×9円) |
| 3. 配当の効力が生じる日 | 2021年5月26日                      |

# 1株当たり年間配当額・純資産配当率（D O E）推移

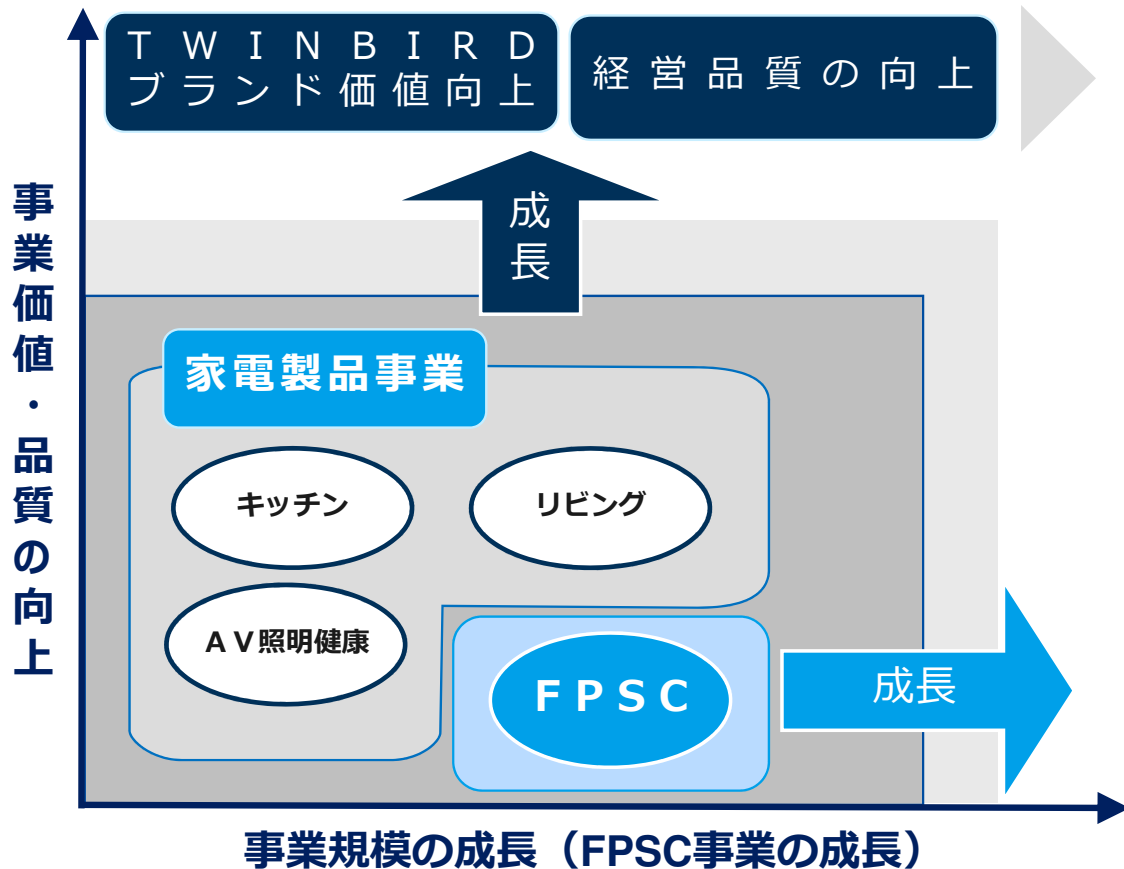
2020年度の期末配当は1円増配し年間配当は12円の配当案（中間3円＋期末9円）

2021年度は創業70周年記念配当を加えて年間配当15円の予想（中間3円＋期末9円＋記念配当3円）



# 2022年2月期業績予想について

## 新中期経営計画（2020-2022）



## 2021年度の取組み

### 既存事業のさらなる成長

- 主力事業である家電製品事業においては、収益性の改善及び経営品質の向上を目指す

### 第2の柱となる事業の確立

- FPSC事業の事業化を加速し、新たな成長性・収益性の確保を目指す

## 成長事業への投資 （FPSC事業の成長投資）

### 成長事業の進展

- 製造設備に係る設備投資
- 開発及び製造に係る人材投資

### FPSC事業の拡大

- 医療用ワクチンの輸送用途等需要拡大への取組み
- 医薬分野から他分野への展開

# 2022年2月期の業績予想

2022年2月期の上期業績予想：家電製品事業、FPSC事業とも大幅な売上増加で黒字化を予想

## 家電製品事業

前年同期比**+17%**の成長

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響がしばらく続くと予想されるものの、家電量販市場やギフト通販市場におきましては引き続き巣ごもり需要を取込むとともに、TWINBIRDブランド価値向上のための戦略的投資効果などにより、堅調に推移するものと予想

## FPSC事業

前年同期比**約9倍**の成長

- 武田薬品工業株式会社向けのSC-DF25WL 5千台の納品が2021年4月中に完了する予定

単位：百万円	2021年度	2020年度		
	上期 予想	上期 実績	前年同期比 差額	成長率
純売上高	7,200	5,237	1,963	37.5%
営業利益	400	△97	497	黒字化
経常利益	300	△161	461	黒字化
当期純利益又は当期純損失 (親会社株主帰属分)	200	△121	321	黒字化

【機会】FPSC事業における新型コロナウイルス感染症ワクチン用ディープフリーザーの需要拡大

- ✓ 国内での「追加受注」の体制整備と刈り取り
- ✓ 「アフタービジネス」の強化
- ✓ 海外販路の開拓加速
- ✓ Stirling Ultracold(GC)との協業機会拡大

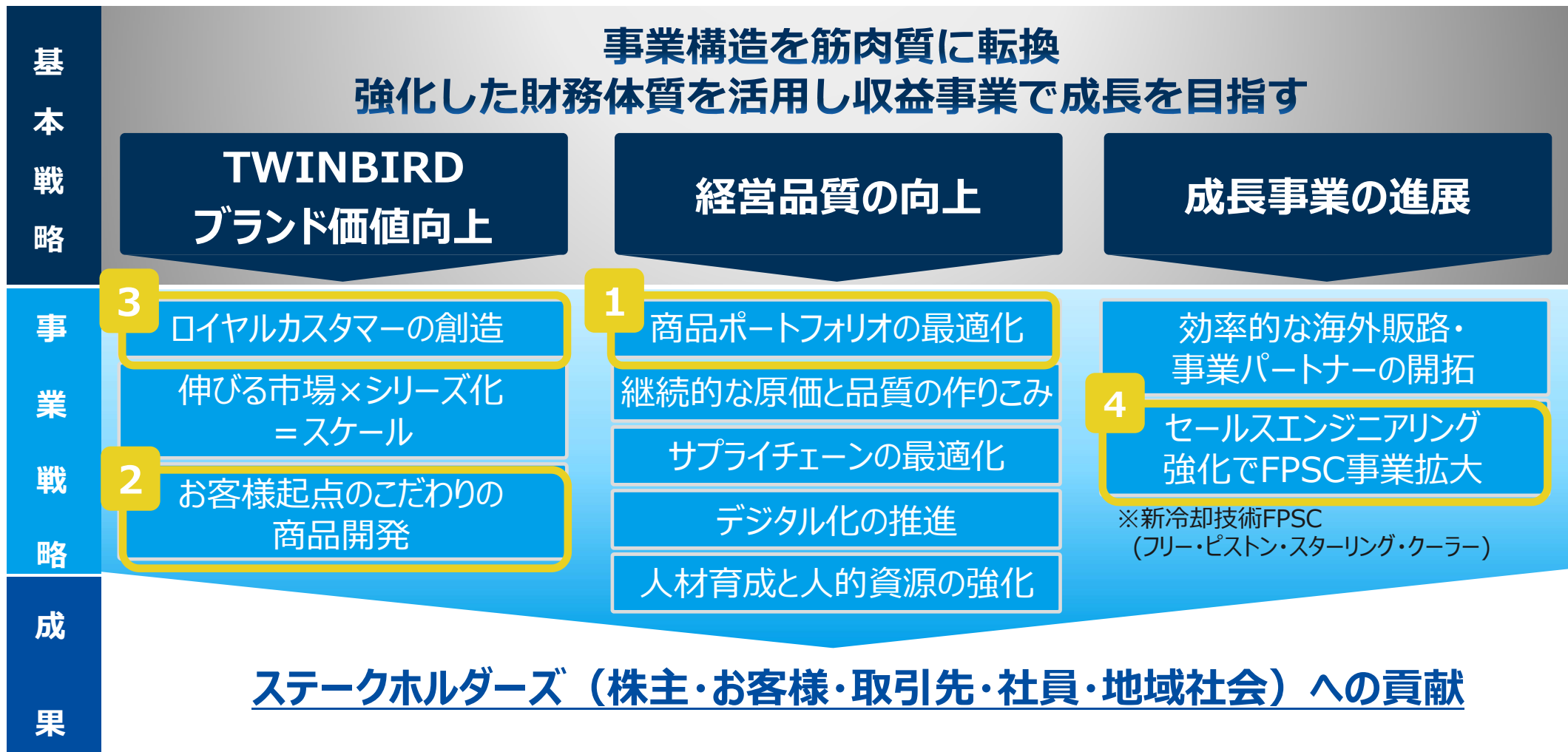
【リスク】ブランド原材料や海上運賃の高騰等が継続する可能性

現時点では、第2四半期累計期間（上期）における業績予想のみ公表

# 中期経営計画の進捗状況と今後の取り組み



事業構造を筋肉質に転換  
強化した財務体質を活用し収益事業で成長を目指す



# 中期経営計画（2020 - 2022） 財務目標の達成状況

中期経営計画初年度の2020年度はすべての中計財務目標値を達成

SC事業の成長が大きく業績に寄与、2021年度以降の需要の見極めが重要

(百万円)	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2020年度 中計目標	2021年度 中計目標	2022年度 中計目標
純売上高	11,625	12,159	12,505	12,200	12,600	13,400
営業利益	113	178	608	250	350	600
営業利益率	1.0%	1.5%	4.9%	2.1%	2.8%	4.5%
経常利益	57	66	484	130	230	450
当期純利益 (親会社株主帰属)	18	△133 29*	164	60	150	300
ROE	0.3%	△2.1% 0.5%*	2.3%	0.9%	2.3% 以上	4.6% 以上
自己資本比率	51.9%	54.6%	62.2%	59%程度	60%程度	62%程度

ロードマップ2  
(2023年度以降)

強化した  
財務体質を  
活用し、  
収益の伴う  
事業で成長を  
目指す

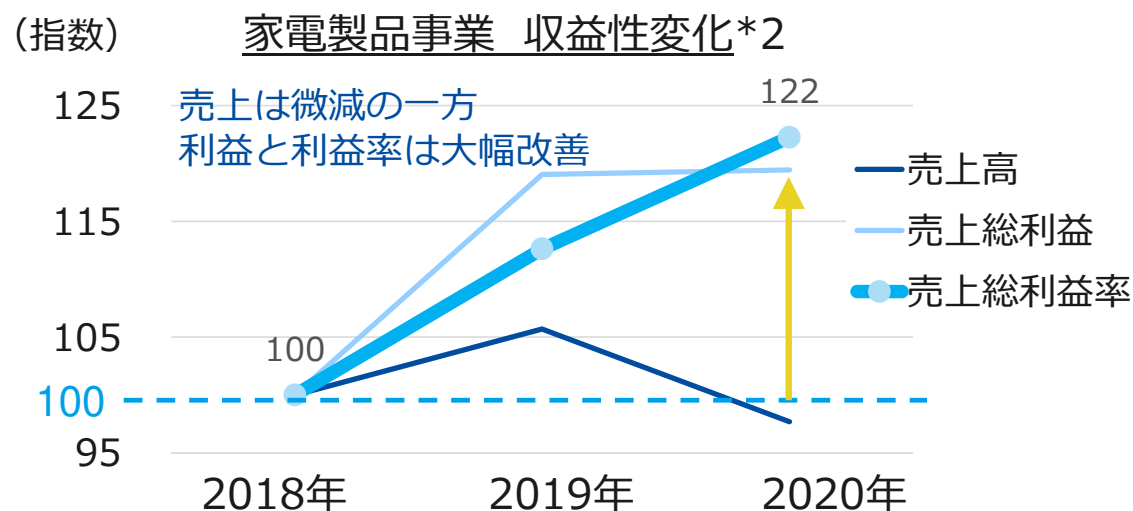
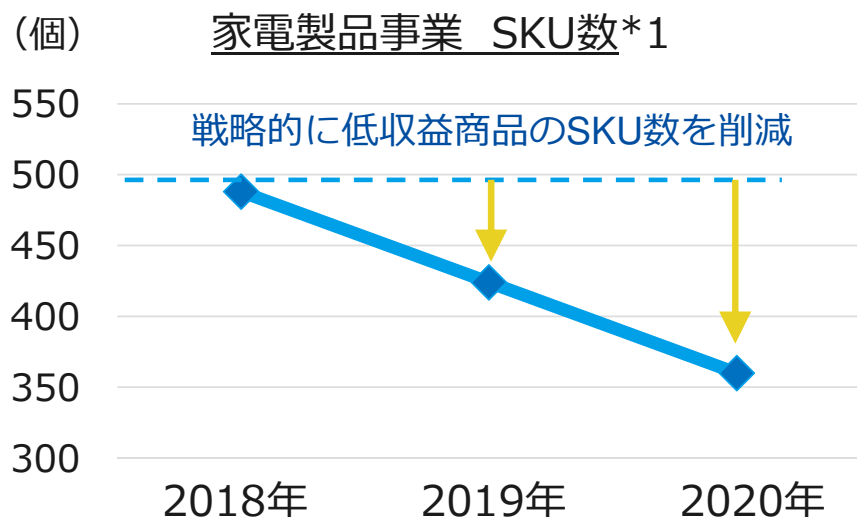
ロードマップ1  
(2019-2022年度)

収益性と資産効率を改善し、  
自己資本の充実・投資余力の確保を図る

\*投資有価証券評価損（211百万円）を除いた数値

# 1. 商品ポートフォリオの最適化

## 戦略的なSKU（商品点数）削減により収益性が大幅改善



\*1 SKU数：廃番品を除く販売実績のある家電製品点数（FPSC・外販事業を除く）

\*2：2018年を100とした場合の指数

- ✓ 商品ポートフォリオを提供価値の高い商品に絞り込み（継続中）
- ✓ 家電製品事業のたな卸資産残高はSKU削減効果も寄与し前期末より2割以上圧縮
- ✓ 今後もSKU削減の波及効果（原価低減・品質安定化・開発効率改善・管理コスト削減等）を取り込んでいく

## 2. お客様起点のこだわりの商品開発

### お客様起点の高付加価値新商品の発売と評価

- ✓ デザインと特化した機能を高レベルで融合させ、ターゲットユーザーに「感動と快適」の体験をご提供
- ✓ クラフトマンシップと共創の精神で市場創造していく



### グッドデザイン賞



2019年度受賞  
・ CM-D457B

2020年度受賞 ▶  
・ TB-G008JPW  
・ DR-F281W

GOOD DESIGN AWARD 2020

2020年度  
新商品

### ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール



経済産業大臣賞  
(グランプリ)  
・ SC-DF25WL

審査委員特別賞  
・ CM-D465B



### 3. ロイヤルカスタマーの創造

#### 博報堂とのパートナーシップによるブランディングの加速

- ✓ ツインバードファンの拡大、LTV（ライフタイムバリュー）の最大化
- ✓ **長期視点で攻めの戦略投資実行**：販売拡大を目指した大きな「リブランディング」「MD再編成」
- ✓ **株式会社博報堂と2021年3月にパートナーシップ契約締結**：「共創」の企業理念に基づく協業
  - 著名クリエイターや事業経験のあるスタッフィング + 広告/PRの展開
  - D2C事業の体制構築



1

- 高付加価値製品の継続的市場導入
- 戦略的なメディア露出

3

- SNS・自社メディアを通じたユーザーとのコミュニケーション

2

- 顧客タッチポイントの品質向上
- トーン&マナー統一

4

- D2C事業の社内体制整備・CRM強化

※詳細は2021年秋に記者発表などを通じて皆様にご報告申し上げます。

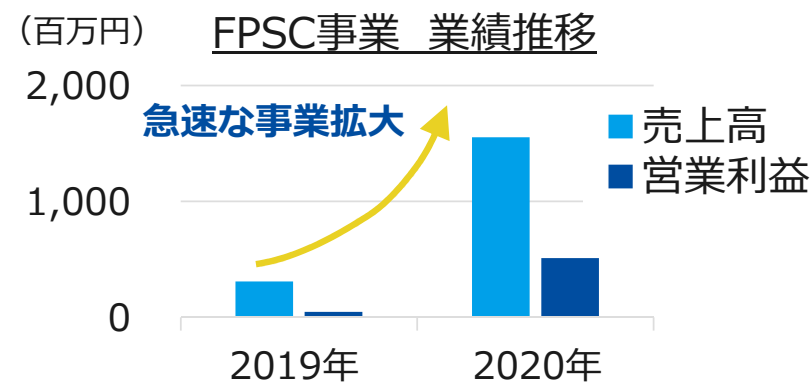
## 4. セールスエンジニアリング強化でFPSC事業拡大

### COVID-19ワクチン用ディープフリーザーが事業拡大に大きく貢献

#### 2020年度実績

- ✓ 厚生労働省向けディープフリーザー5千台および海外からの大型受注が事業業績に寄与

ディープフリーザー-SC-DF25WL



#### 2021年度計画

- ✓ 武田薬品工業向けディープフリーザー5千台の出荷、および全国自治体からの追加需要(製品供給、燕市モデルの横展開)に対応、**着実な接種に貢献していく**
- ✓ サービス体制および保守ビジネスの強化
- ✓ 海外新規販路の開拓加速 (ロビーイング強化など)
- ✓ 事業パートナーStirling Ultracold (現Global Cooling, Inc.)との新たな事業機会

BioLife Solutions, Inc. と Global Cooling, Inc.との事業統合  
※ 2021.3.22に計画を発表, 2021.5.3株主総会で正式決定予定



STIRLING  
ULTRACOLD

- ・細胞・遺伝子治療分野(CGT)用機器, サービスの主要なサプライヤー (NASDAQ上場企業)
- ・スターリング冷凍機事業の当社パートナー

※ <https://investors.biolifesolutions.com/2021-03-22-BioLife-Solutions-to-Acquire-Stirling-Ultracold-in-an-All-Stock-Merger>

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**3** すべての人に  
健康と福祉を



**8** 働きがいも  
経済成長も



**9** 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



**13** 気候変動に  
具体的な対策を



**17** パートナースHIPで  
目標を達成しよう



新興ウイルスによるパンデミックの可能性や発生頻度は今後益々高まるものと想定されております。

当社は SDGsの一つである「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて、国内外のネットワークを通じて、グローバル

規模での最新技術に基づくコールドチェーンの構築や医療

サービスの拡充に参画し、当社スターリング冷凍技術が医療

分野でスタンダードの一つとなるよう取り組んでまいります。

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

©TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.

# 補足資料

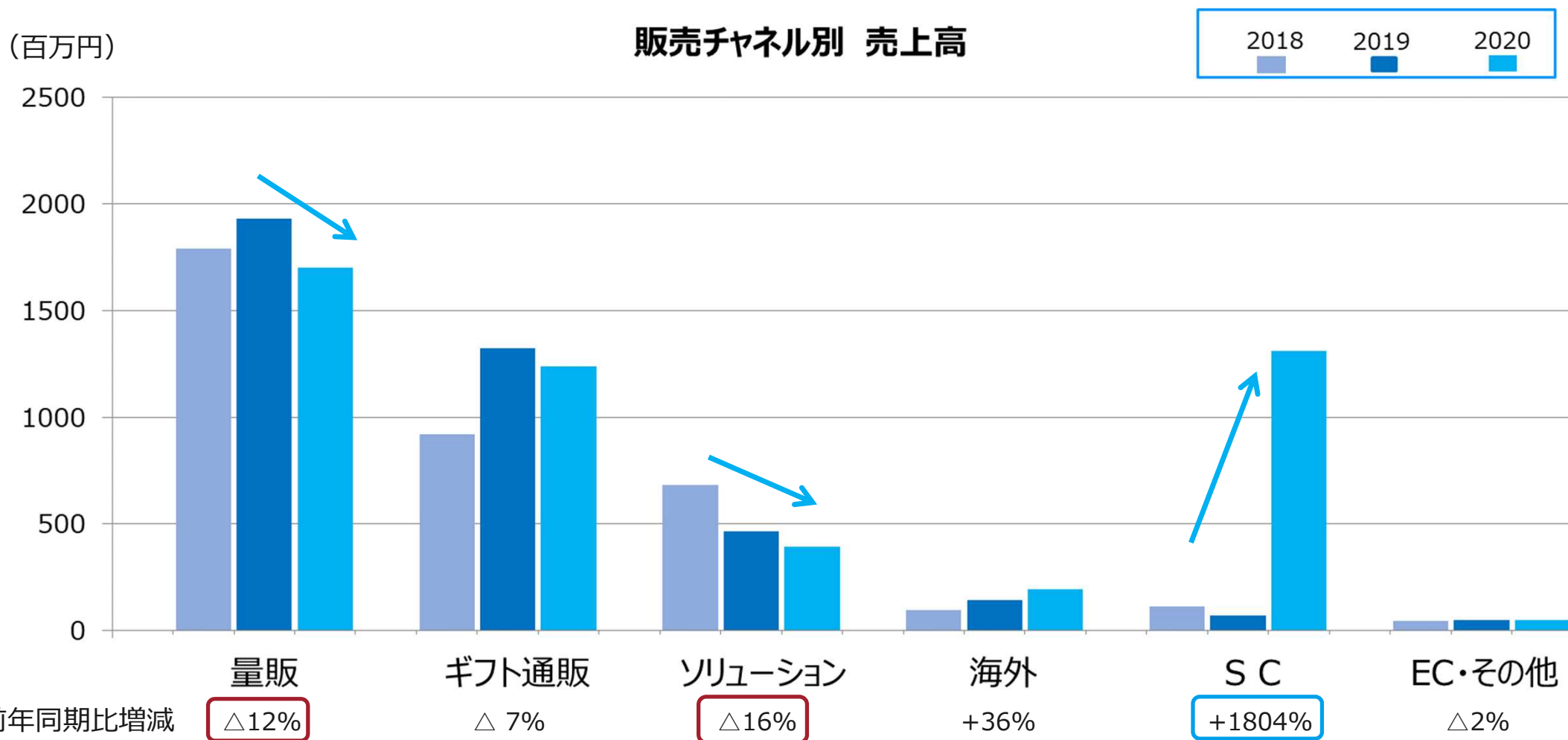
## 2021年2月期 第4四半期業績



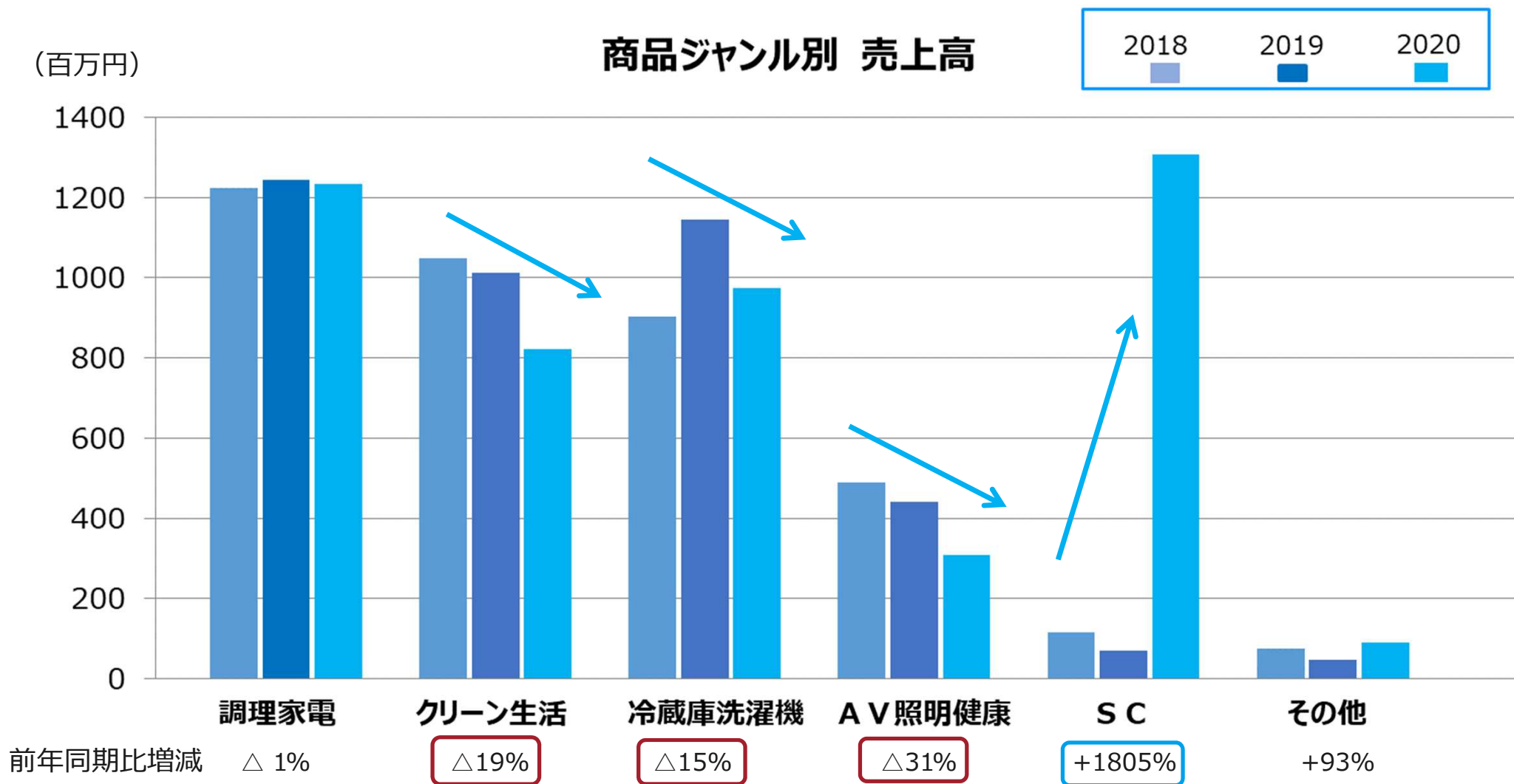
# 第4四半期（3ヶ月）連結損益計算書

単位：百万円	2020年度	2019年度		
	4Q 実績	4Q 実績	前年同期比 差額	成長率
純売上高	4,743	3,929	813	20.7%
売上総利益	1,868	1,325	543	41.0%
純売上高比	39.4%	33.7%	5.7pt	
営業利益	816	353	462	130.8%
純売上高比	17.2%	9.0%	8.2pt	
経常利益	794	331	462	139.4%
四半期純利益 (親会社株主帰属分)	396	138	257	185.4%

# 販売チャネル別 第4四半期売上高（3ヶ月）



# 商品ジャンル別 第4四半期売上高 (3ヶ月)





I Rに関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 執行役員 経営企画本部 本部長 小林 和則 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 最高財務責任者 執行役員 管理本部 本部長 高木 哲也 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

©TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.